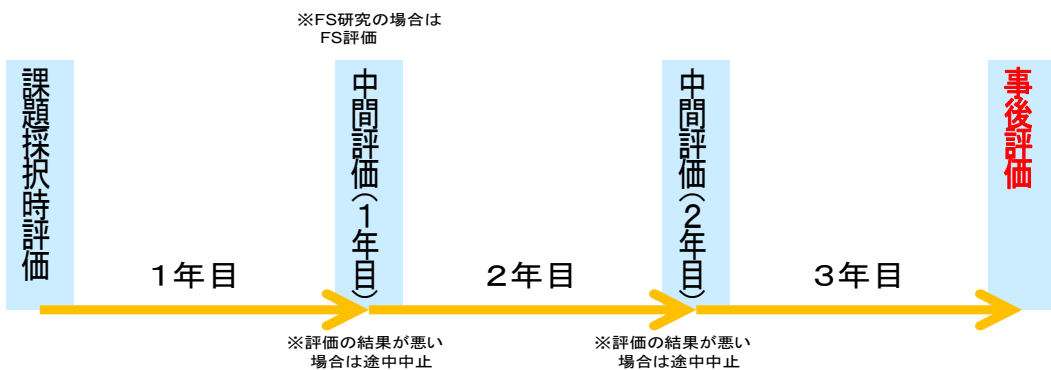


① 事後評価の位置付け

技術研究開発の採択～評価の流れ



③ スケジュール

	H27年度				
	6月	7月	8月	9月	10月
事後評価関係書類作成 (研究代表者への通知等)	資料作成期間(約2ヶ月)				
	作成依頼通知		提出〆切		
事前査読期間 (評価委員による事前査読)			■		
研究成果発表会 (研究成果の普及促進)				■	
研究評価会 (事後評価(案)作成)				■ 評価案作成	
第27回新道路技術会議 (事後評価決定)					■

② 事後評価の対象

分科会	領域	タイプ	採択	委託研究テーマ	研究代表者	評価分科会	
						分科会長	委員
ソフト分科会	1	I	24	都市圏交通調査・分析・予測手法の先導的プラットフォームの構築と実装	熊本大学 准教授 円山 琢也	朝倉委員	大野委員 加藤委員 柴崎委員 根本委員 野村委員 福井委員 森川委員 道路局担当官 国総研担当研究官
	1	I	24	道路資本の市町村別ストック推計に関する研究開発	筑波大学 准教授 堤 盛人		
	1	II	24	道路の旅行時間信頼性の評価と運用に係る研究開発ー経済便益計測手法の提案と経路誘導システムの構築ー	東京工業大学大学院 准教授 福田 大輔		
	5	II	24	歩行者の表情・しぐさを利用した空間評価指標についての研究開発	埼玉大学大学院 教授 久保田 尚		
	6	II	24	改良対策立案のための交差点安全性評価シミュレータの研究開発	名古屋大学大学院 教授 中村 英樹		
	ハード分科会	4	II	24	カルバートを含む盛土構造の耐震性能および連続アーチカルバート盛土の設計規範の構築に関する研究開発		
7		II	24	津波に強い道路構造物の研究開発	九州工業大学 教授 幸左 賢二		
8		II	24	疲労き裂の補修技術に関する研究開発	名古屋大学 教授 舘石 和雄		
8		II	24	舗装路面の動的たわみ計測装置の開発と健全度評価	東京農業大学 教授 竹内 康		

1. 目的

研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の道路政策への反映見込み等を評価するとともに、あわせて今後の制度全体の評価や見直し等に活用することを目的として、事後評価を実施。

2. 事後評価の対象・時期

研究が終了した全ての研究課題を対象とし、研究終了の翌年度に実施。

3. 事後評価の視点及び基準

(1) 事後評価の視点

研究の視点、行政の視点に基づき、研究目的の達成度や研究成果、道路政策の質の向上への反映見込み等について、4段階(a～d)で評価。

	研究目的の達成度	研究目的に照らして、その達成の度合いはどうか。	評点	説明
研究の視点	研究成果	評価できる研究成果を上げたか。研究成果が当該研究分野等の発展に寄与できたか。	a	適切である／大いに期待できる
	研究成果の活用・発展性	得られた研究成果の活用や発展性などの今後の展望はどうか。研究成果の積極的な公表・普及に努めているか。	b	概ね適切である／概ね期待できる
行政の視点	道路政策の質の向上への反映見込み	研究成果の実務への反映見込み等、道路政策の質の向上に資するものとなっているか。※	c	やや適切でない／あまり期待できない
	研究費規模とその成果	配分された研究費規模に見合う、研究成果及び道路政策の質の向上への寄与となっているか。	d	適切でない／期待できない

※公募時の研究タイプ(I、II、III)の内容・ねらいを踏まえた評価とする。

(2) 評価基準

事後評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究課題の事後評価について、4段階(A～D)で総合的に評価。

評点	説明
A	研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
B	研究目的は概ね達成され、研究成果があった。
C	研究成果は一部に留まった。
D	研究成果があったとは言い難い。

＜事後評価シートのイメージ＞

事後評価シート(分科会委員評価用)

事後評価シート			【様式 1】
評価分科会委員			
番号	研究課題名	研究代表者	
1. 事後評価の結果			
事後評価の視点	評 点	意 見	
1. 研究目的の達成度	a	適切である	
	b	概ね適切である	
	c	やや適切でない	
	d	適切でない	
2. 研究成果	a	適切である	
	b	概ね適切である	
	c	やや適切でない	
	d	適切でない	
3. 研究成果の活用・発展性	a	大いに期待できる	
	b	概ね期待できる	
	c	あまり期待できない	
	d	期待できない	
4. 道路政策の質の向上への寄与	a	大いに期待できる	
	b	概ね期待できる	
	c	あまり期待できない	
	d	期待できない	
5. 研究費規模とその成果	a	適切である	
	b	概ね適切である	
	c	やや適切でない	
	d	適切でない	
評価基準		意 見	
A	研究目的は達成され、十分な研究成果があった		
B	研究目的は概ね達成され、研究成果があった		
C	研究成果は一部に留まった		
D	研究成果があったとは言い難い		
2. 特記事項			
(研究の目的達成度や成果に関する意見、今後の展望、実務への反映に関する指摘事項等。)			

事後評価(案)(研究代表者通知用)

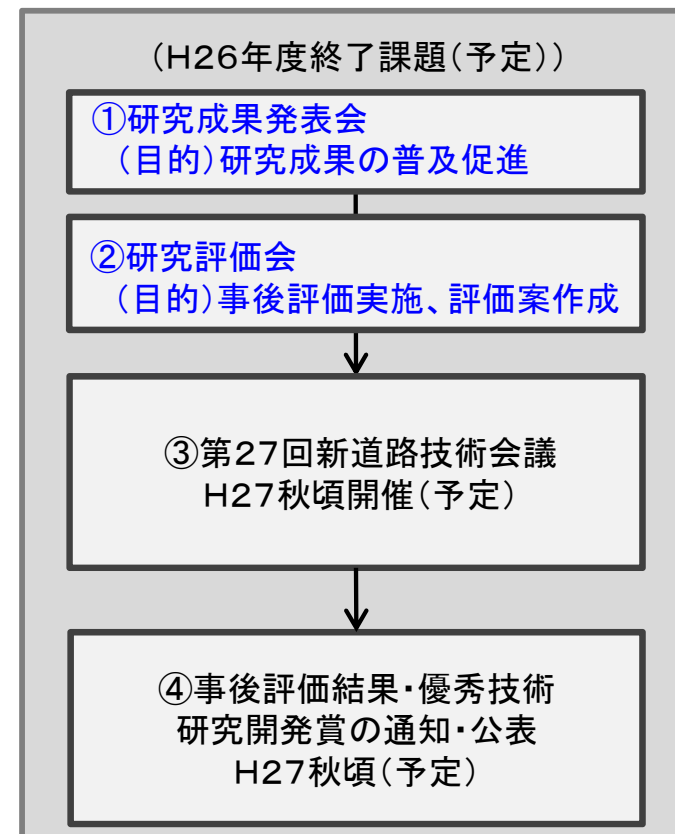
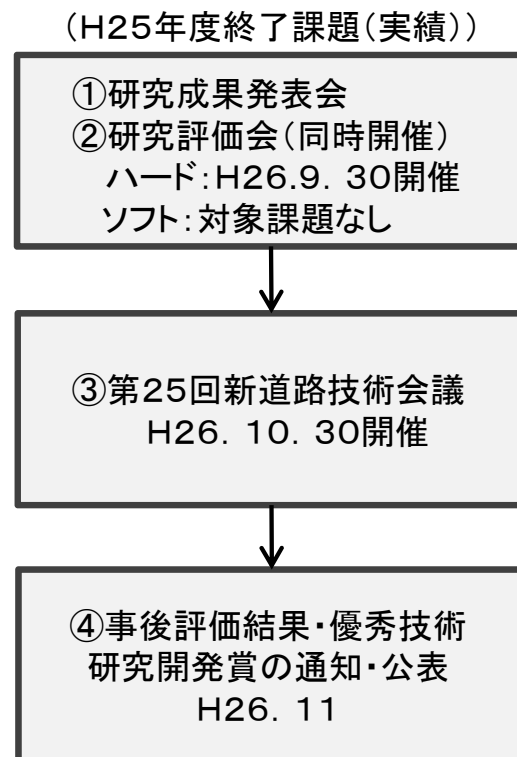
事後評価(案)			【様式 3】
評価分科会長		○○ ○○○	
番号	研究課題名	研究代表者	
○○	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○に関する研究開発	○○大学 教授 ○○ ○○○	
1. 事後評価の結果 (☆の数は委員の数を表します。)			
事後評価の視点	評 点	意 見	
1. 研究目的の達成度	a	☆☆☆☆☆☆	○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	b	☆☆	
	c		
	d		
2. 研究成果	a	☆☆☆☆☆	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
	b	☆☆☆	
	c		
	d		
3. 研究成果の活用・発展性	a	☆☆☆☆	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○
	b	☆☆☆☆	
	c		
	d		
4. 道路政策の質の向上への寄与	a	☆☆☆☆☆	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	b	☆☆☆	
	c		
	d		
5. 研究費規模とその成果	a	☆☆☆☆☆	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	b	☆☆☆	
	c		
	d		
評価基準		意 見	
A	研究目的は達成され、十分な研究成果があった	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	
B	研究目的は概ね達成され、研究成果があった		
C	研究成果は一部に留まった		
D	研究成果があったとは言い難い		
2. 特記事項			
(研究の目的達成度や成果に関する意見、今後の展望、実務への反映に関する指摘事項等。)			

4. 表彰課題の選定

事後評価結果が「A」となった研究を全て表彰対象として選定し、新道路技術会議より「優秀技術研究開発賞」を授与するとともに、記念品(表彰盾)を贈呈。

5. 研究成果発表会・研究評価会の開催

研究期間終了後に研究成果に関する発表会を開催。なお、本年度の事後評価の実施にあたっては、成果のさらなる活用促進の観点から、[①研究成果発表会](#)と[②研究評価会](#)を個別に開催予定。



6. 提出書類及び期限

(1) 提出書類

各研究課題の研究代表者は、以下の書類を提出。

- ①「研究終了報告書」【様式1】
- ②「研究経費に関する調書」【様式2】(非公表)
- ③「研究概要」【様式3】(研究の背景・目的、研究内容、研究成果などをスライド4枚程度で簡潔に分かりやすく作成)
- ④「Summary of the Study」【様式4】(国際展開に係る情報提供の一環として、③の内容を英語で記述したものを作成)
- ⑤「技術研究開発成果報告レポート」【様式5】

(2) 作成依頼・提出期間

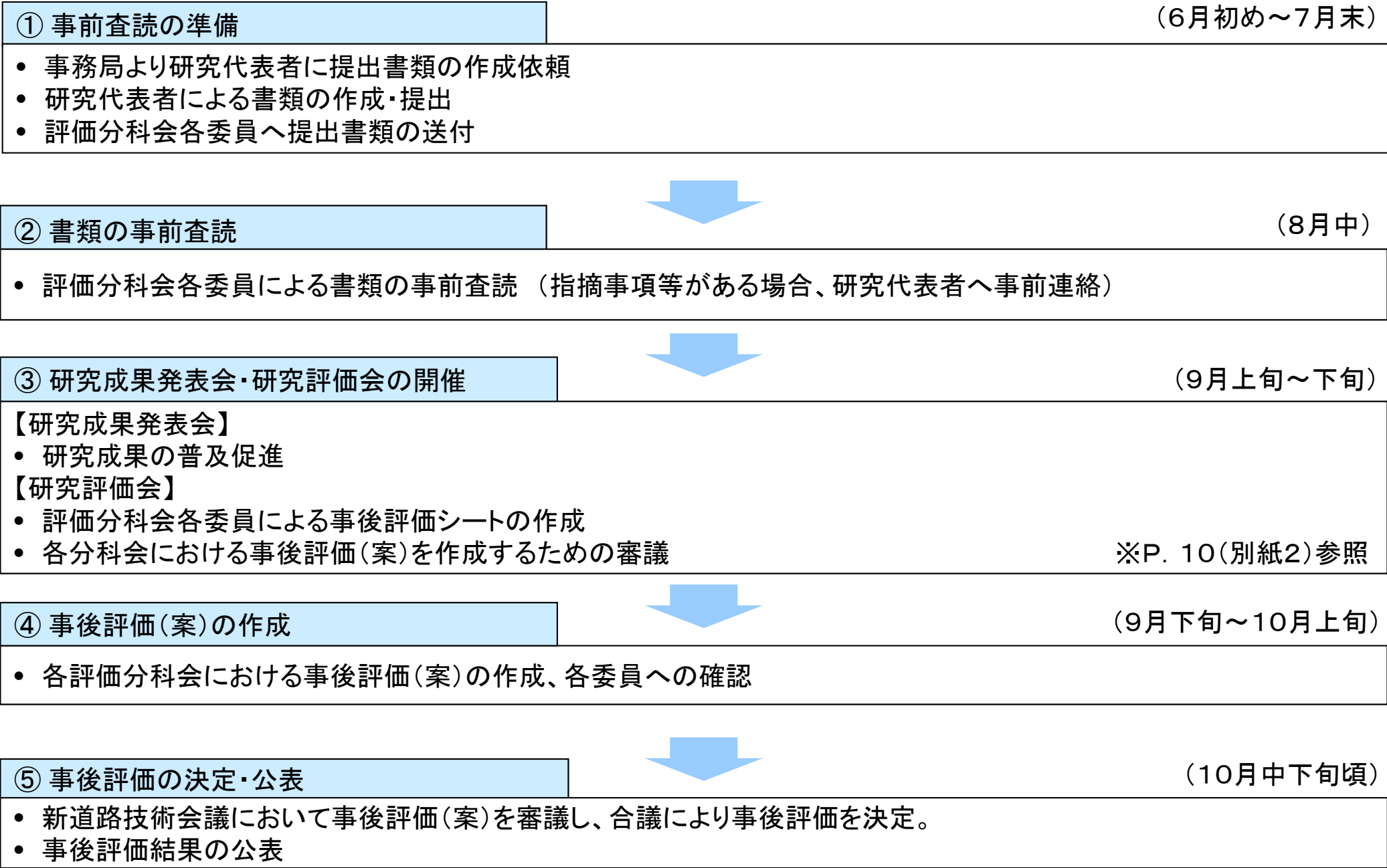
平成27年6月初め頃に依頼し、7月末までに提出

7. 事後評価の体制

- 評価対象課題をソフト及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置(※P. 9(別紙1)参照)。
- 各分科会は、新道路技術会議委員(7~8名)、行政官(1名)、研究官(1名)で構成。
- 各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

8. 事後評価の手順

事後評価の手順は、次のとおり。



評価分科会委員(案)

分科会	領域	タイプ	採択	委託研究テーマ	研究代表者	評価分科会	
						分科会長	委員
ソフト分科会	1	I	24	都市圏交通調査・分析・予測手法の先導的プラットフォームの構築と実装	熊本大学 准教授 円山 琢也	朝倉委員	大野委員 加藤委員 柴崎委員 根本委員 野村委員 福井委員 森川委員 道路局担当官 国総研担当研究官
	1	I	24	道路資本の市町村別ストック推計に関する研究開発	筑波大学 准教授 堤 盛人		
	1	II	24	道路の旅行時間信頼性の評価と運用に係る研究開発ー 経済便益計測手法の提案と経路誘導システムの構築ー	東京工業大学大学院 准教授 福田 大輔		
	5	II	24	歩行者の表情・しぐさを利用した空間評価指標について の研究開発	埼玉大学大学院 教授 久保田 尚		
	6	II	24	改良対策立案のための交差点安全性評価シミュレータの 研究開発	名古屋大学大学院 教授 中村 英樹		
ハード分科会	4	II	24	カルバートを含む盛土構造の耐震性能および連続アーチ カルバート盛土の設計規範の構築に関する研究開発	京都大学 教授 木村 亮	前川委員	清野委員 末岡委員 谷委員 那須委員 二羽委員 前川委員 森委員 道路局担当官 国総研担当研究官
	7	II	24	津波に強い道路構造物の研究開発	九州工業大学 教授 幸左 賢二		
	8	II	24	疲労き裂の補修技術に関する研究開発	名古屋大学 教授 舘石 和雄		
	8	II	24	舗装路面の動的たわみ計測装置の開発と健全度評価	東京農業大学 教授 竹内 康		

研究評価会 ソフト分科会
議事次第(案)

日時:平成27年9月上～中旬
13:00～16:30(仮)

場所:霞ヶ関周辺(予定)

1. 開会
2. 挨拶、実施方法の説明(13:00～13:10)
3. 研究成果報告(1課題あたり30分)
 - 1) 研究課題1(13:10～13:40)
 - 2) 研究課題2(13:40～14:10)
 - 3) 研究課題3(14:10～14:40)

～休憩(5分)～

 - 4) 研究課題4(14:45～15:15)
 - 5) 研究課題5(15:15～15:45)

～休憩(10分)～
4. 事後評価の審議(15:55～16:30)
5. 閉会(16:30頃)

1課題あたりの時間配分は以下を予定。
○15分説明(パワーポイント使用予定)
○15分質疑応答
○5分審議